

大明小学校 校長室から

令和2年3月25日

No. 66

最終号

文責 校長 飯久保一男

次への準備

3月のほとんどが臨時休業となってしまう、大事な1年間の締めくくりが中途になってしまいました。学年によっては学習内容がやり切れなかったものがありますが、1年間の区切りとして、本日、1～5年生全員に修了証書を渡しました。未履修の学習内容は、次の学年で確実に学習しますのでご安心ください。

春休みの子どもたちは、学年が終わった解放感や次の学年へ向けての不安などから、落ち着かない期間です。これまでの臨時休業に引き続いての春休みという形になりますので、もう一度親子で話し合っ、安全で健康的な生活となるようお願いするとともに、次の学年へ向けての準備をお願いします。

修了式での校長の話の概要です。

臨時休業があり、1年間の最後の3月が、学校で過ごせずに、締めくくりがあまりできなかったのですが、今日が、それぞれの学年の終わりの日となります。今、修了証書を代表の人に渡しましたが、このあと担任の先生から、全員に渡されます。これは、今の学年の学習や活動をよくがんばって修了したことを表します。通信表を見て、課題になっているところ、心配なところは、この春休みに取り組んでおいてください。また、臨時休業になってしまい、やり切れていない学習は、次の学年で必ずやりますので安心してください。



さて、今回も怪獣を2つ紹介します。1つ目は出会ってほしくない怪獣「宙ぶらりん」です。1年生は、明日から2年生ですか？ まだ1年生でしょうか？ いつまで黄色い帽子をかぶるのでしょうか。黄色い帽子をかぶらないということは、車を運転する人に、この子はもう、注意してくれなくても自分で注意できる小学生ですと言っていることになります。4月には新しい1年生が入学してきます。心の準備はできていますか。

2年生以上の方は経験済みですが、春休みの時期は、今の学年なのか次の学年なのか、中途半端な「宙ぶらりん」の時期です。このあと、離任する先生を紹介します。別の学校に行く先生もいます。担任の先生がいなくなったら、困ったことや相談したいことは誰に連絡をすればいいでしょうか。次の担任の先生が決まるまでは、今の担任の先生がまだ担任です。連絡は今の担任の先生にしてかまいません。また、学校には、土日以外は先生が必ずいますので、学校に連絡してくれてもかまいません。「宙ぶらりん」のふわふわした生活をしていると事件や事故に遭うことにもつながります。これまでと同じように、安全で健康的に落ち着いて生活をしてください。

2つ目の怪獣は、出会ってほしい怪獣です。「モクヒョウ」といいます。次の学年に向けての目標はもうありますか。まだという人は、ぜひ、目標をつくってください。そしてその目標に向かって、4月からではなく、今から取り組み始められるものは始めてください。それ以外にも、春休み中にやり遂げたいことの目標や、その日その日の目標など、自分で目標をつくって過ごす習慣がつけられるといいなあと思います。

充実した春休みを過ごし、4月から1つ上の学年でがんばってください。

出会ってほしい
怪獣



モクヒョウ

空より高く

作詞 新沢としひこ
作曲 中川ひろたか・スコットランド民謡

人は空より高い心をもっている
どんな空より高い心をもっている
だからもうだめだなんて
あきらめないで
涙をふいて歌ってごらん
君の心よ 高くなれ
空より高く 高くなれ

人は海より深い心をもっている
どんな海より深い心をもっている
だからもういやだなんて
背をおけないで
見つめてごらん 信じてごらん
君の心よ 深くなれ
海より深く 深くなれ

だからもうだめだなんて
あきらめないで
涙をふいて歌ってごらん
君の心よ 広くなれ
空より広く 広くなれ
君の心よ 強くなれ
海より強く 強くなれ

※YouTubeで「空より高く」と検索すると、
この保育園児たちの歌声を聴くことができます。

「空より高く」という曲をご存知でしょうか。途中から聞き覚えのある「蛍の光」のメロディーになります。「日本のちの電話連盟」のホームページにこんな記述がありました。

そのカセットテープは、幼い園児のこんな言葉で始まった。

「いろいろな人に助けられました。
ぼくたちは小さくて何もできないけれど、
歌をうたいました。聞いてください。」

東日本大震災にうちひしがれた被災者のためにと、一生懸命に声を張り上げる園児たち。決して上手とは言えない合唱は、しかし聞く者の命の奥底に響く真っ直ぐさと力強さがあつた。大震災から一週間が過ぎた、盛岡市のAMラジオ局「IBC岩手放送」に届いた一本の録音テープだった。子どもたちのメッセージに続き、先生のピアノ伴奏にのった「空より高く」が流れた。約20年前、音楽教育雑誌で発表されたという園児向けの合唱曲は、テープを送った二戸市の保育園が、卒園式のたびに合唱する歌だった。

ラジオ局がテープを放送した。リクエストのメールが届いた。翌日も、また次の日も。感動の輪は広がり、海外メディアにも紹介された。同局のアナウンス部長が振り返る。

「一番多かったのは『生きる勇気を子どもたちからもらった、前を向いていこうと励まされた』という声でした。何十回、いや何百回、このテープを放送したでしょう。リクエストがあるんです。」

この歌が多くの被災者の心をとらえて離さない理由は、明日に向かって歩み出すその一歩を自然に押ししてくれる力にあるのだと思う。大津波に襲われ、家族を失い、恋人を亡くし、建てたばかりの家を奪われても、逆境をはねのけ前進しようと自らを奮い立たせる被災者が無数にいる。だからこそ、リクエストも絶えなかったに違いない。

1年間、校長通信「校長室から」にお付き合いいただきありがとうございました。言いたい放題のものや保護者の皆さんにとって気に入らないものもあったことと思いますし、こんなこと言われてもできるわけないじゃんと思われたものもあったことと思っています…。

でも、私にとっては、この紙面をつくっている時間は、とても楽しい時間でした。

さて、私こと

この度の年度末の人事異動で、思いがけず異動することになりました。校長や教頭はその学校にそう長くはいられないものですが、もう少し置いてもらえると思っていました…。1年の最後が臨時休業となり、子どもたちや保護者・地域の皆さんにあいさつもそこそこに異動することを申し訳なく思います。

大明小学校は、保護者・地域の皆さんに温かく支えられ、素直で元気な子どもたちが育つ環境にある素晴らしい学校だと思います。私は隣の小笠原地区に住んでいますし、異動先も隣の小笠原小学校です。きっと、大明小学校の子どもたちのいろんな活躍の話がまた聞けると思っています。それを楽しみにしています。たった1年間でしたが、私にとってとても素晴らしい1年でした。お世話になりました。ありがとうございました。

飯久保